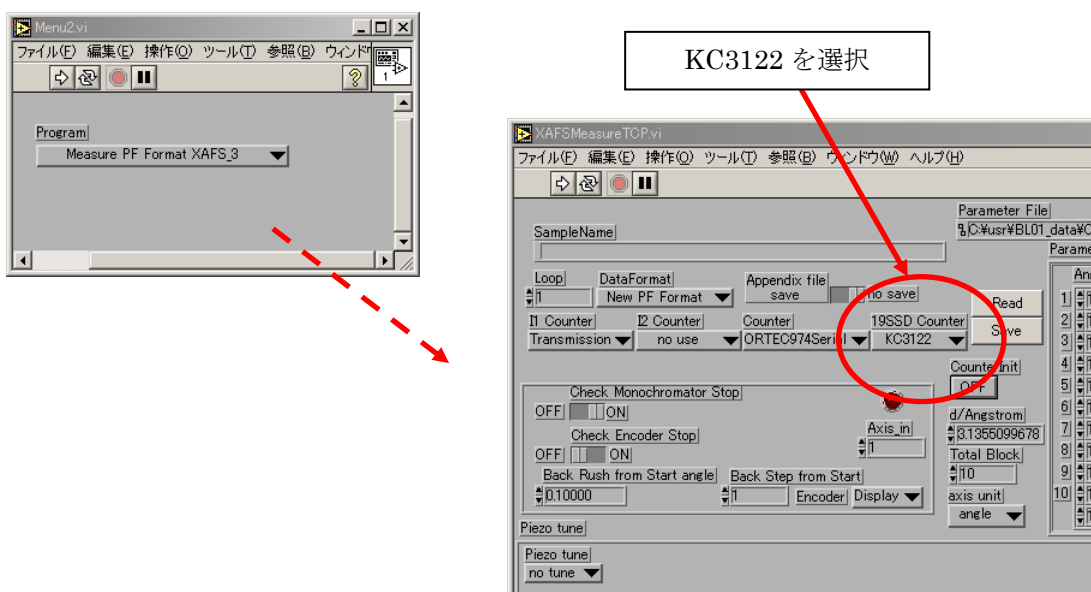


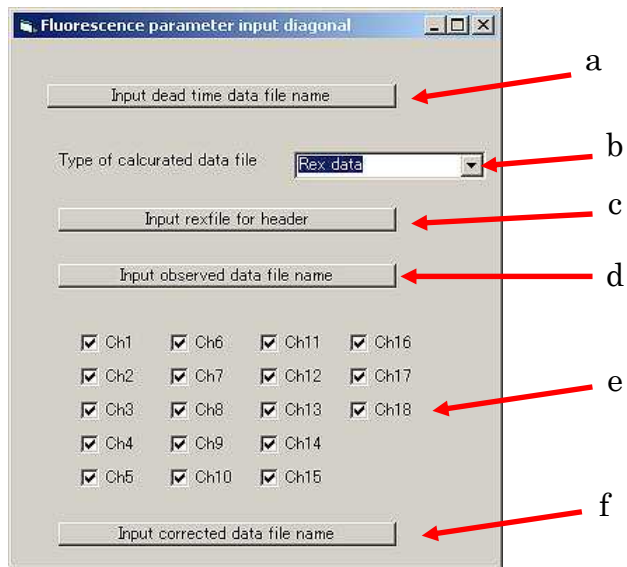
1 XAFS スペクトルの測定

- (1) Measure_PF_Format_XAFS3 を開く。
- (2) 通常の透過法と同様に手順で、パラメーター入力を行う。
- (3) 19SSD Counter の KC3122 を選択する。(Default は no use)



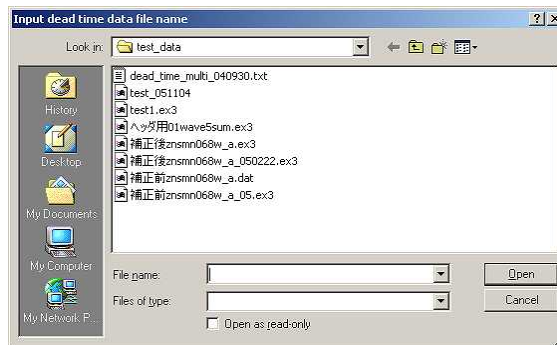
図_XAFS 測定ソフト

- (4) XAFS スペクトル測定中は、I1 に 18 個の SSD のカウント数を単純に積算したものが表示される。カウンターが 18 channel 分しかないため、19 素子のうち最も調子の悪い素子を外している。
- (5) 測定時間 1 sec/1 point で XAFS のテスト測定を行い、問題がないことを確認する。
- (6) 数え落とし補正が必要な場合、スペクトルの補正を行う。
 - ① PC (Gaia) デスクトップ上の Dead_time_corr.exe を使用する。
 - ② ソフトを起動すると次のような window が開く。



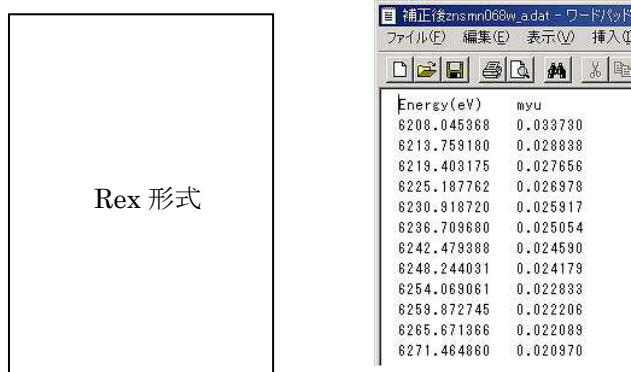
図_.数え落とし補正ソフト

- ③ “a”を押すと”ファイルを開く”のダイアログが開くので、補正用データファイルを選択する。使用するファイルについては担当者に確認する。



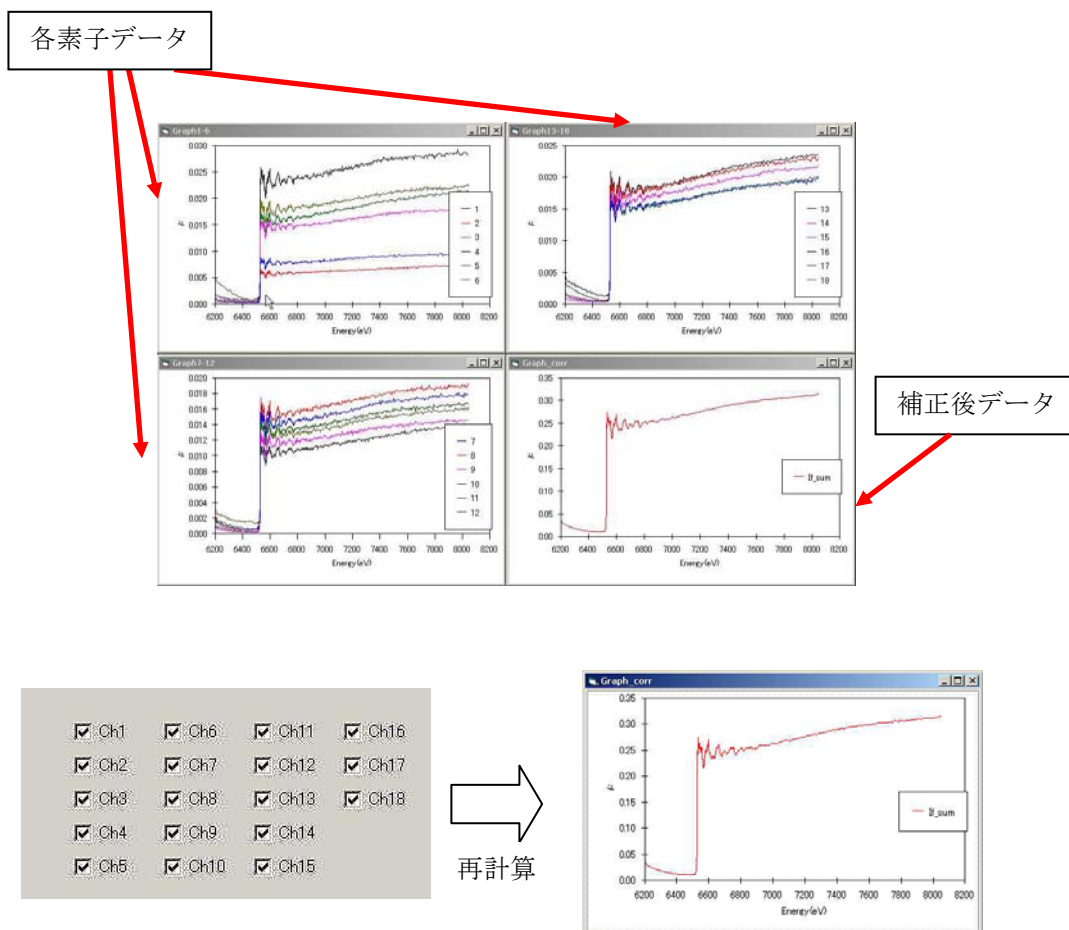
図_.補正用データファイル読込

- ④ ”b”により、補正後のデータの形式を Rex、Energy-If/10 のどちらかを選択する。



図_.補正後データ形式 (REX 形式、Energy- μ 形式)

- ⑤ "c"を押し、Rex ファイル(拡張子.ex3)のファイルを選択する。
 - ・読み込んだ Rex ファイルのヘッダ部を補正後のデータに加えることが目的。
- ⑥ "d"を押し、Measure_PF_Format_XAFS3 にて測定したファイル(拡張子.dat)を選択する。
- ⑦ "d"まで選択が終わると、18 素子分のデータと補正後のデータが表示される。"e"の素子No.のチェックを外すと、該当する素子を除き再計算、表示される。



図_.各素子データと補正後データ

- ⑧ "f"を押し、補正後データを保存する。

- (7) 補正を行ったスペクトルを用いて $\chi(k)$ を計算し、問題がないことを確認すること。
- (8) テスト測定で問題がなければ、本測定を行う。

以上